



# 天皇陛下から 御下賜金を拝受



この度、天皇陛下からの御下賜金を、拝受致しました。平成29年12月22日（金）大分県庁にて伝達式が行われ、大分県知事広瀬勝貞様から伝達書と御下賜金を頂戴しました。大木理事長は「恐縮の至り。この栄誉に恥じぬよう一層精進したい。」と謝辞を述べました。

御下賜金は、例年、各都道府県及び各政令指定都市より各1団体が選ばれ、12月23日の天皇誕生日に合わせて、優良民間社会福祉事業施設・団体に贈られています。

当法人は、昭和33年4月29日、昭和36年4月29日、昭和40年4月29日と、これまでに3回の御下賜金を拝受しており、今回で4回目となります。

昭和60年には、現天皇・皇后両陛下が当法人に行啓されました。

## 経営理念

Management Philosophy

花のように優しく誠実に

私たちはみよりの精神である慈愛・奉仕・研究を基本精神とし  
地域・社会より愛され、認められる法人をめざし  
社会福祉事業の担い手として、地域・社会へ貢献します。

# みよりのり

## No. 96

発行日

平成30年2月9日

発行者

社会福祉法人 みよりのり村

印刷

株式会社 クリエイト

掲載内容

- 1 天皇陛下から御下賜金を拝受
- 2 祈願式・年始、決意表明
- 3 決意表明
- 4 施設見学・取材、研修 他
- 5 社会貢献活動 他
- 6 地域交流
- 7 福利厚生 他
- 8 寄贈、お知らせ

祈願式・年始

平成30年 新年祈願式並びに年始  
『みのりの精神(こころ)を原点に!!!』

今年一年の村の安全を願い、みのり村正法寺にて、役員一同による新年の祈願式を執り行いました。

引き続き、本部(菩提樹)ホールにて全職員参加による年始を開催しました。職員代表挨拶では、各拠点部門(日出、杵築、高齢者)から代表として3名のスタッフが本年の決意表明を行いました。

理事長より、「福祉を取り巻く社会情勢が大きく変化するなか、社会福祉法人には地域・社会における公益的な取り組みが求められています。今一度、村の創設の原点である『みのりの精神(こころ)』、自未得度先度他、尊い人の世を、自分の事のみ生きる程、自分を粗末にしてはならぬ』に立ち返り、スタッフ一同、業務に邁進して頂きたい。」と年頭の訓示がありました。(1月3日)

尊い人の世を  
自分の事にのみ生きる程  
自分を粗末にしてはならぬ  
(みのりの精神)



理事長 年頭挨拶



新年の祈願

日出障がい福祉部

新年明けましておめでとうございます。

平成30年を迎え、日出障がい福祉部を代表致しましてご挨拶をさせていただきます。

昨年は、九州北部豪雨で大分県にも多大な被害がありました。中でも県南地区での障がい福祉施設の被害は、東日本大震災を思い起こさせ、福祉に身を置く者として他人ごとではないと思いました。

障がい福祉では、今年4月より、社会福祉法が一部改正されることになり、社会福祉法人には、今まで以上に公益性や非営利性の実現に、迫られることとなります。

国が「障がい者の地域生活支援」に沿って様々なサービスの創設に向かう中で、このみのり村も、施設の強みを活かした地域貢献を推進していく事で、もっと地域の方々に認められるようになりたいと思います。



私がみのり村に入職し10年が経ちます。その間、通所施設、入所

施設と経験し様々な障がい者の方と接してきました。その中で強く感じたことは、障がい者の方が地域の中に溶け込んで行くのには、時間がかかるという事でした。自立したくても受け入れのグループホームがない、就労したくても就職場所がない。障がい者一人ひとり個性があり特性が違うのに、社会では障がい者とひとくぎりにされてしまいます。

障がい者の個性を知って頂く事、入所施設を知って頂く事、そこから共生社会はスタートすると考えます。「みのり村は地域に必要なだ。」「みのり学園があって良かった。」と言って頂けるように、これからも、積極的に地域行事などに参加し、地域の方々に理解して頂けるように、努力したいと思います。

そして、利用者の皆様はもちろんのこと、職員も笑顔で過ごせるように、安心・安全で充実した生活ができるように、プロの支援員を目指し日々精進していきたいと思えます。皆様のご指導のほどよろしくお願い致します。

最後に、みのり村の皆様が健康で、幸多き1年になりますことを願い、私の決意表明とさせていただきます。

平成30年1月3日

第2みのり学園

支援員 武田 ゆかり

決意表明

## 杵築障がい福祉部

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、杵築障がい福祉部を代表致しまして、新年のご挨拶をさせていただきます。私がみのり村に入職したのは、平成20年4月。最初に菩提樹の介護員として配属されました。その後白萩園で生活支援員として勤務し、多くのご利用者様と関わりながら、沢山の経験をさせていただきました。現在は、しらはぎ障がい者生活支援センターの相談支援専門員として勤務しております。

さて、杵築市では、昨年度より、介護保険で実施していた地域ケア会議について、障がい・生活困窮・子育ての困難事例についても適用し、実施しています。地域ケア会議での事例検討は、各専門職からの助言を受け、新たな視点を持ってご利用者様と向き合うことができ、支援の方向性について見つめなおす良い機会となってい



## 高齢者福祉部

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと存じます。僭越ではございますが、年頭にあたり高齢者福祉部を代表してご挨拶を申し上げます。

昨年は、九州全土に豪雨が続き、大分県にも大きな被害が発生しました。特に記録的な豪雨に見舞われた日田市ではいまだ復興の最中です。只々一刻も早い復興を祈るばかりです。

私がみのり村に入職させて頂いたのは平成11年。今年で18年目を迎えます。入職時より特別養護老人ホーム菩提樹の一職員として人生の先輩であるご利用者の方々のお世話をさせていただいております。当時は「多床室、共同部屋の集団処遇」でしたが、平成20年度より「個室ユニットケア」へ大きく転換しました。クオリティーオブライフ重視の観点から、ユニット型の特別養護老人ホームの存在意義はますます増大しています。

また、入職したころはお元気なご利用者の方ばかりでしたが、平成27年度の法改正により入所基準が要介護3以上となりご利用者の重度化が進んでいます。それに伴いベットから車椅子へ、車椅子からベットへの移乗介助、中腰の姿勢でご利用者を支える入浴介助など職員の負担が増えています。特に介護の業務では腰に負担がかかる作業が多く、職員の中には腰痛をおして業務を行っている者もいます。近年、介護ロボットの研究開発が国の後押しもあり盛んになってきています。高齢者福祉部でも、昨年度、介護ロボット「HAL」を導入して頂きました。「HAL」とは、職員の体に装着し、脳から筋肉へ発信

ます。困難事例の中には、家庭において複合的な課題を抱える事例も多く、ライフステージに合わせての相談体制・支援体制が求められており、行政、医療機関など他職種との連携による支援が欠かせないと日々感じております。

また、障害者総合支援法が改正され、今年の4月より施行されます。内容としては、「生活」と「就労」に対する支援の一層の充実、高齢障がい者の介護保険サービスの円滑な利用を促進するための見直し、障がい児支援のニーズ多様化へのきめ細かな対応、サービスの質の確保・向上に向けた環境整備等があげられています。今後、障がいのある方が地域で安心して生活することができるよう、国が進めていくものと思います。

私は、支援者の一人として、幅広い分野についての知識を深め、障がいのある方やご家族の視点に立って関わる事を大切に、信頼される相談員となれるよう努めていきたいと考えています。

最後に、皆さまが健康で、笑顔の絶えない、素晴らしい一年となることを願いまして、私の挨拶とさせていただきます。

平成30年1月3日

しらはぎ障がい者生活支援センター  
相談支援専門員 後藤 晴美

される「生体電位信号」を読み取り、介護者の動きに合わせて自動的に作業をアシストしてくれるロボットです。現在は2台の「HAL」を運用しています。県内施設でもいち早く菩提樹に導入され、昨年

1月には行政関係者や事業関係者をお招きし、お披露目を致しました。メディアにも取り上げられ、「菩提樹」を知って頂く機会となり、私たちにとっての誇りにもなっています。

このように高齢者福祉の現場は日進月歩であり、われわれ職員もその時流に乗り遅れることなく、前進する必要があります。しかし、福祉に携わる者の根底にあるべきはただ一つ、それは人間の尊厳です。菩提樹の基本方針である「私たちは利用者の皆様に安心、安全で居心地のいい空間を創造し、個人の尊厳に配慮した快適で上質なサービスを提供します。」の言葉を胸に、日々の努力を惜しまず業務に一層励みたいと思います。

最後になりましたが大木理事長をはじめ皆様のご指導のもと仕事に励みご利用者の皆様から「菩提樹へ入所してよかった」と言って頂けるようにサービスの質の向上に努めてまいります。皆さまにとって希望あふれる一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

平成30年1月3日

特別養護老人ホーム菩提樹  
ケアワーカー 鈴木 穂



### 首相補佐官 衛藤晟一様



理事長と談笑 12月9日

### 厚生労働省より来訪



高齢者雇用の様子を見学

厚生労働省職業安定局、雇用開発部高齢者雇用対策課の課長補佐、山下禎博様がお越しになりました。(10月19日)

発達障がいのお子さんをお持ちの保護者及び日出町子育て支援課から10名の方が、障がい福祉サービス事業所の「ワークセンター」「誠」で取り組んでいる6次産業を見学しました。  
参加者からは「ご利用者の特性に合わせることでできる環境が整っています。」との感想をいただきました。

(10月20日)

### ワークセンター「誠」の 6次産業を見学



えむほガーデンを見学



### 福祉新聞社 取材

1955年以来、62年間社会福祉の専門紙として創刊している「株式会社福祉新聞社」の取材を受けました。(11月17日)

### 交通講話

杵築障がい福祉部と日出障がい福祉部、高齢者福祉部にそれぞれ杵築日出警察署の署員の方をお迎えし、講話をしていただきました。  
交通事故は年間約90万件あり1分間に1.8件発生しています。そのうち7割は高齢者が関係する事故です。  
スタッフ全員が運転をする責任を改めて見つめ直し、今後も交通安全に努めていきます。



菩提樹在宅支援課での講義

### 管理者向け 実務研修を実施

みのり村本部研修室にて、管理者を対象に管理実務者研修を開催しました。福祉を取り巻く環境について共通理解を図り、職場でのスタッフ指導・管理の学習をしました。

(12月11日)



グループワークでの意見交換

### 食品衛生講習会

特別養護老人ホーム菩提樹に東部保健所衛生課の講師をお招きし、スタッフ27名が食品衛生の知識や食中毒について講習を受けました。

「症状がないから大丈夫。」ではなく、「症状がなくてもウィルスをもっていかぬかもしれない。」と意識し、感染症予防の徹底に努めて参ります。

(12月5日)



実技を通しての学習

### 平成29年度 大分県高齢者福祉施設等 実践研究大会に参加

大分県老人福祉施設協議会が主催する高齢者福祉施設等実践研究大会がレインボラントホテル大分にて開催されました。この大会は事業者の実践活動を発表し、共に学び、社会に発信する大会です。

高齢者福祉部から2チームが参加しました。特別養護老人ホーム菩提樹の後藤・粟田チームのテーマは「オリゴ糖を活用して自然排便を目指す」。デイサービスセンターの大畑・大谷チームは「せん!!」一歩前へ閉じこもりを防止し、社会参加を促す」でした。発表に至るまで、多くの方々にアドバイスを頂き福祉に関する知識を深めることができました。

今後さらにサービスの質の向上を目指してまいります。  
(10月26日)



後藤・粟田チームの発表



挨拶をする大木老協協会長

# 台風18号豪雨災害に職員派遣

大分県津久見市、佐伯市に上陸した台風18号による豪雨は、流木のため橋が寸断されたり、道路が冠水したり甚大な被害を出しました。

「大分県社会福祉施設等災害時相互応援協定」に基づき、津久見市の障がい福祉サービス事業所にスタッフ2名が災害復旧のサポートへ向かいました。



濁流による被害



派遣に向かったスタッフ2名

社会貢献活動

# 社会福祉法人の社会貢献活動事例集に掲載されました。

社会貢献活動推進協議会が発行する事例集に、「みのり村の十日市」と菩提樹まちかど交流サロン「福ろう」が掲載されました。



VOL1



VOL2

# おおいた冬の事故ゼロ運動 参加!!

法人本部(杵築市日野)前の国道213号線沿いで、交通安全街頭指導を行いました。

朝夕の交通量が増える時間帯に合わせ、2日間で延べ44名がドライバーの皆さまに安全を呼びかけました。今後も、「おこさず あわず 事故ゼロ」を目指し、交通ルールの遵守と呼びかけを取り組んで参ります。

(12月15日、20日)



朝の街頭指導

# 災害に備えて訓練

みのり村全施設で総合防災訓練が、消防署の指導のもと、実施されました。9月20日(水)特別養護老人ホーム菩提樹では、水害を想定して、放水訓練、要救助者救出などの訓練を実施し、救命講習を受け心肺蘇生などの応急手当て訓練を行いました。

杵築障がい福祉部は9月27日(水)、日出障がい福祉部では11月24日(金)、地震発生時の火災を想定して、初期消火訓練や炊き出し訓練などを行いました。

各施設、重度化や高齢化が進む中、非常時の避難は大きな課題です。全職員が協力して、積極的に訓練に参加しております。



救命講習(特養菩提樹)



炊き出し訓練(杵築障がい福祉部)



要救助者救出(特養菩提樹)



放水訓練(特養菩提樹)

ご利用者の「安心・安全」

地域交流

第66回みのり村ふれあい体育祭

当日は、台風21号の影響であいにくの雨となりましたが、各施設、屋内での「ふれあい体育祭」を開催しました。

競技が始まると、声援や拍手、たくさん笑い声が会場に響き渡りました。会場全体大いに盛り上がり、台風を吹き飛ばす勢いでした。

(10月21日)



杵築障がい福祉部



高齢者福祉部



日出障がい福祉部



山香ふるさと祭り 障がい者作品展に出展

障がい者作品展は、障がい者の芸術・文化活動への参加を通じ、生活を豊かにし、障がい者に対する理解を深めて頂く展示会です。当法人から書道や機織りクラブの作品を出展しました。日頃の成果や丹精込めた作品をご覧頂きました。

(11月10日～11月12日)



おいいたマルシェ出店

大分市や周辺自治体の農林水産物をPRするイベント「大分マルシェ」が大分いこいの道芝生広場で開かれました。障がい福祉サービス事業所みのりスマイルが出店し、ブースには野菜や漬物などが並び、皆様、袋いっぱいご購入して頂くことができました。ありがとうございました。

(11月11日)



青空のもと、出店

市立八坂小学校「竹の子クラブ」の子どもたちと交流会

秋晴れの空が広がる中、特別養護老人ホーム菩提樹が企画した「お芋をいっぱい食べよう会」を開きました。元気いっぱい小学生とそのご家族、障がい者グループホームのご利用者など多くの参加者が芋ほりを体験しました。収穫したお芋に舌鼓をうち、ゲームに参加し、全員で盛り上がりました。皆さん、お疲れ様でした。

(11月18日)



地域の方々とゲームで交流

元気にべったんこ餅 餅つき大会!!

小春日和の師走の空の下、杵築障がい福祉部いち押し工房にて餅つきを行い、「よいしょ」の掛け声とともに、杵の音を響かせました。

野田区長をはじめ、野田区民生委員、野田老人クラブなど地域の皆さまの協力で、長年続く年末恒例の法人行事です。時折、臼の縁をつく鈍い音と黄色い歓声が交錯し、和やかな雰囲気になりました。

(12月27日)



よいしょ よいしょ

第13回 みのり村作品展 きらめく個性!!

みのり村作品展を11月29日(水)から12月3日(日)の5日間、大分市アートプラザで開催しました。観覧者の皆さまには絵画や陶芸、書道など個性光る作品が並び空間に入ると、純粹で無垢な世界観を共有していただけたと思います。期間中、多くの皆さまにお越し頂き、誠にありがとうございました。



テーマ「扉をひらいて下さい 想いを形に…」



真剣に観覧する皆さま



書道クラブの作品

### 3B体操でスタッフの健康増進!!



ベルを使って足上げ運動(高齢者福祉部)



ベルターを使いストレッチ(杵築障がい福祉部)



ボール運動(日出障がい福祉部)

公益社団法人日本3B体操協会のご協力のもと、スタッフの福利厚生の一環として3B体操を開催しました。

3B体操はボール、ベル(クツション)、ベルター(伸縮ゴム)の三つの補助具を使う健康体操で年齢を問わず楽しめます。

参加者からは、「最初は少し気恥ずかしかったけれど、楽しいひと時で、良いリフレッシュができました。」との声を頂きました。

### 社会保険ミニバレーボール大会 出場



ナイス アタック!!



皆でピース!!

大分市コンパルホールで開催された大会に、チーム「みのり」のスタッフ13名が出場しました。県内の代表5チームで白熱した試合を繰り広げ、会場は大興奮。日頃の練習の成果を発揮し、2月は県大会へ参加します。

### 祝 永年勤続者表彰

第66回みのり村創立記念日に永年勤続者表彰を行い、理事長より感謝状と記念品が贈呈されました。表彰者を代表して清水道祐支援員(みのりスマイル所属)が謝辞を述べました。(12月8日)



表彰者の皆さま

60歳以上	勤続	氏名	所属
	40年	清水 道祐	みのりスマイル
30年	矢野 春子	「風と樹々と空と」	
20年	阿部 典子	白百合園	
	阿部 道代	白萩園	
10年	佐藤 洋子	みのりスマイル	
	洞 かず子	菩提樹	
	土田久美子	白萩園	

  

60歳未満	勤続	氏名	所属
	40年	内村 嘉裕	白萩園
	30年	宮崎 藤	第2みのり学園
		富山 純映	菩提樹
	10年	加口 亜衣	菩提樹
		佐藤あゆみ	白萩園
瞰野 亜希		みのりスマイル	



御下賜金を受け取り謝辞を述べる大木隆理理事長(右から2人目)

みのり村は1951年、西日本で初めての知的障害児施設「みのり園」として開設。現在、知的障害者更生施設や特別養護老人ホームを運営している。

天皇誕生日に際しての御下賜金が22日、杵築市日野の社会福祉法人「みのり村」に贈られた。

御下賜金は社会福祉事業を奨励するため毎年、各都道府県の優良民間社会福祉事業施設・団体1カ所に贈られる。

県庁で伝達式があり、広瀬勝貞知事から手渡された大木隆理理事長(64)は「恐縮の至り。この榮譽に恥じぬよう一層精進したい」と謝辞を述べた。

杵築の社会福祉法人

